

六年を以て生まれた。幼より學を好み、常陸國加波山の麓なる迎雲寺に入つて淨土の法門を學び、尋いで關東の諸寺に遊び、廿五歳の時本寺に歸つたが、長祿三年再び出で、諸國に巡錫し、遂に加賀江沼郡に入つて法義を宣布した。蓋し北陸は先世顯智・專空の開闢した法田であつたからであらう。之より眞慧は轉じて越前・近江を經、終に伊勢に入り、寛正六年本寺を今の一身田に移した。

ジンエモンザカ 甚右衛門坂 金澤城西北隅の入口なる坂路をいふ。古へ美濃の浪士平野甚右衛門が金澤御坊に寄宿して居たが、天正八年佐久間盛政に攻められ、この坂で戦死したとも、又一説には、前田利長の頃この坂の上に祿二百石を受けた篠塚甚右衛門が居り、後乞骸して奥州に去つたともいひ、その名稱の起る所以明らかでない。↓ヒラノジンエモン 平野甚右衛門。

ジンエモンザカモン 甚右衛門坂門 金澤城甚右衛門坂口の城門で、時鐘樓の傍に在り、足輕番所が置かれてあつた。寶永頃の達書に、『甚右衛門坂御門際まで乗物・乗馬に而罷出人々有之、向後坂下に而下馬下乗有之様、諸頭中へ可申談。』とある。

シンオウソウリユウ 眞翁宗龍 曹洞宗の僧。加賀の人。浮翁全様に師事し、嗣法して全久寺の主となり、次いで永平寺に昇つた。後泉龍・龍溪の二寺に歴遷し、三河宗堅寺の開山となり、又信濃宗心寺・伊勢花林寺を創立した。慶長八年四月七日寂。

シンオウトクジュン 心應篤諱 石川郡曹洞宗大乘寺五十九代の住持。信州の人。享和三年同國松本全久院天龍に受業し、文政八年

越中光嚴寺桂堂の常恒會に首職であつた。九年桂堂から傳法、十一年攝州妙法寺、天保元年永平寺、九年遠州崇信寺、弘化四年同州大洞院、嘉永三年長州功山寺、安政二年越中光嚴寺に轉住し、文久元年十月大乘寺に入り、一住三年、同三年五月十六日六十五歳で寂した。

シンオンキヨタク 新御居宅 江戸本郷邸に於ける前田齊敬の住館を新御居宅と名づけた。寛政元年六月七日上棟。

シンカイ 新開 (一)新開の手續―藩政の時山野湖沼等不毛の地を新たに開拓して田畑となしたものを新開というた。改作法施行以前から存在した古田に對する名稱である。新開では、初年・二年の收穫を全く作人の作徳たらしめ、内檢地極高を定めた上、三年・四年目は圖免の半額を、五年目から圖免全額を藩に納めしめる法であるが、事情によつて變更せられることもある。新開をなさんとする者は、その居村たると他村たるとを問はず開拓する地があれば、郡の新田裁許に願ひし、改作奉行の許可を受けることを要した。

(二)請高新開―作人が豫め高何程と見積つて出願許可を得たもので、既に圖免を以て納租するに至つても、内檢地を經ぬ以前は、凡べてこの名を以て呼ばれた。

(三)仕法新開―古へより開拓の容易なる地は既に開拓し盡くしたるを以て、文化二年作業困難なる新開地は十年以内に開墾せしめ、若しその期間に終了せれば、地元を沒收し、他人に命じて開拓せしめ、それを仕法新開というた。天保中仕法新開を請高新開中に加へた。

(四)御仕立新開―初から藩有とし、開拓費を改作所から支出するもので、初は御手前開ともいうた。天保中御仕立新開も請高新開中に加へた。

(五)圖免新開―内檢地を經て新開の草高が決定した時はこの名目になる。天保中から極高新開というた。

(六)定免新開―圖免新開の年月を經て地味向上し、村免と同一に定められたるものというた。

(七)一免下新開―前記と同じが、村免より免一つを低下した率に定められたものをいひ、天保中定免新開の名義に併せられた。

(八)新開退轉―新開が永荒等となつた爲、見捨高とせんことを出願しても、容易に許されぬ。地元の存在する以上は復舊し得ないとは限られぬからである。但し山崩によつて斷崖となり、波浪に洗はれて海底に没した場合の如きは、改作奉行の踏査によつて許可せられた。

シンガイトウコウキ 辛亥東行記 一冊。澤田宗堅著。寛文十一年前田綱紀に供奉して、著者が江戸に赴いた時の作詩を集めたものである。

シンカク 眞覺 ↓リョウドウシンカク 了眞眞覺。

シンガク 心學 心學の初めて加賀藩に入つたのは、文化四年十月二日手島流の心學者脇坂義堂が、江戸からの歸途金澤に留つて講演した時であらう。この際市人の之を聴くも其甚だ多く、爲に會場を米仲買集所に移す程の盛況を見た。しかもその後直にこの學に志す者なかつたが、奥佐藤儀左衛門は江戸に

於いて參前舎に赴き、石田勘平・手島堵庵等の講演を聴き、その下民教化に益あることを知り、藩老臣の默認を得て、文政三年以降心學者村松吉左衛門及びその社中寺内甚藏と共に、自宅に於いて四十の目を撰びて開講し、儀左衛門も亦經書を和らげて演述した。吉左衛門は割場足輕で、嘗て京都に役した時明倫舎に於いて修業したものであらうと言はれる。之より後この學に志す者漸く多く、安政の頃に及んでは彌その有益なることに着目せられ、町奉行岡田隼人・荒木半太夫は藩に請うて許可を得、割場足輕田邊喜藏の外表方坊主中の心學に詳しいものを探つて講師とし、南町壘屋九郎兵衛の家を借りて心學所を興し、之と同時に城下の五神社に一月二回の講話を催し、後には磯部屋小路又は卯辰山に於いても之を開くことになつた。

シンカクジ 眞覺寺 鳳至郡鹿磯に在つて、眞宗東派に屬する。

シンカクジ 新覺寺 鳳至郡鶴川に在つて、眞宗東派に屬する。

シンガン 心岩 淨土宗の僧。横蓮社縱譽又は光阿と稱した。金澤に生まれ、寛文六年廿六歳で淨安寺に入り、回譽上人に度を受け、下總大巖寺に學んで乘譽上人の法を嗣ぎ、貞享二年又江戸の傳通院眞譽に師事した。心岩次いで金澤大圓寺に住し、その荒廢を再興せんと欲し、自ら佛像を畫いて經營の資を募り、元祿十三年落成供養し、後又江戸に出で、増上寺心光院に住し、寶永元年幕命を受け、將軍徳川綱吉の生母桂昌院の墓所に慧照院を建て、寶永三年八月廿六日六十歳を以て心光院に寂した。心岩は頑夢とも號し、畫技に精